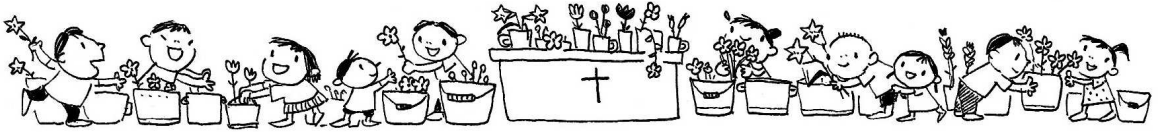


+1 (プラスワン)



【教区選挙地獄絵図】

牧師 横山順一

今年には教団総会が行われる年なので、各教区で教団総会議員の選挙が行われています。兵庫教区もそうです。

ですが、阪神・淡路大震災が起った二十一年前、未曾有の出来事に対応するため、本来行われるはずだった各種選挙を中止し、任期を一年延長したのでした。

それ以来、十七教区中、兵庫教区だけが、教団総会議員だけでなく、三役、常置委員、宣教委員、各部委員すべての選挙を一気に行うこととなりました。一年に一回やってくる地獄です(笑)。

議長・副議長は予備選を実施しますし、常置委員は倍教候補を定めた上での選挙となります。教団総会議員は、推薦制を取った上での選挙です。

常置委員の倍教候補も、教団総会議員の推薦候補も、それぞれ所信表明を行うのです。教団総会議員は、相当数の人が推薦されるので、一人十秒だとしても所信表明

にかなりの時間がかかります。これらが教師と信徒双方でなされるのですから、議員は大変です。

それらの選挙ごとに議場が閉鎖されて議員数が数えられます。それはアルバイト学生の仕事なのですが、彼らが万一教え間違えると、投票総数と食い違いが出るので、これもまた怖い作業です。

兵庫教区の選挙総会のしんどきは、全国に知られていて、私も赴任前から恐れていました。が、二年前は、義理の息子の就任式を優先して、二日目のみの出席だったので、まだましでした。

その意味では、今回がすべての初体験だったのです。それも何と「投票委員」としての初体験となりました。

普通、投票委員は体力のある若手の教師が担当します。前任の大阪教区では、開票には学生アルバイトが動員されるので、作業が軽減されます。議員席で議事にも参加できるのです。

兵庫は前述の投票作業を全部投票委員が行います。議員席には最初の開会礼拝しかおられません。進藤さんはきつと寂しかった。

たゞ、ことでしょうか。

後はずっと投票委員室に缶詰め状態。二日目は事情で二名減ったので、いっそうの地獄となりました。

常置委員や教団総会議員は四名連記での投票です。繰り返し説明していても、五名「書く人が必ずいます。それは無効票なのです。ミスをふせぐため二人一組になってチェックを重ねます。食事時間も満足に取れません。

まあ、へとへとですよ。つくづくマークシートとかボタン投票の導入を切望します。

それでも「楽しく」無事終了できたのは、投票委員の顔ぶれが良かったからです。ほとんどみんな友だち。選んだ教区の計画的犯行を邪推しましたが・・・

ともあれ、進藤さんと共に教団総会議員に選出されましたので、秋に総会に行くこととなりました。そこでもまた、新三役・常置委員選挙が行われます。はあ。

それよりも来月は参議院選挙です。これは超大切です。占拠されぬよう、謙虚に臨みたいですね。